

点群データの計測 実施手順例

(3d Scanner App™編)

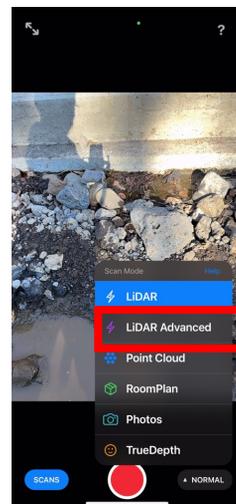
はじめに

まずは、基本的な使い方を覚えましょう。

本書は、2023年2月時点のアプリのバージョンでの説明となります。
※バージョンにより画面構成やコマンド名が異なる場合があります。

アプリのダウンロード

App Storeから3d Scanner App™をダウンロードします。



計測方法の設定

アプリの計測方法は、右記の選択ができますが、実施例としては、完成形状点群データの計測を想定して、詳細な設定が可能なLiDARAdvancedのモードにて赤字の設定で説明します。

■ CONFIDENCE (信頼性)

- Low
- Medium
- High

■ RANGE (範囲)

- 0~5m (5m)

■ MASK (マスク)

- None
- Object
- Person

■ RESOLUTION (分解能)

- 0mm-50mm (15mm)



使い方

新しいスキャンの開始方法を説明します。

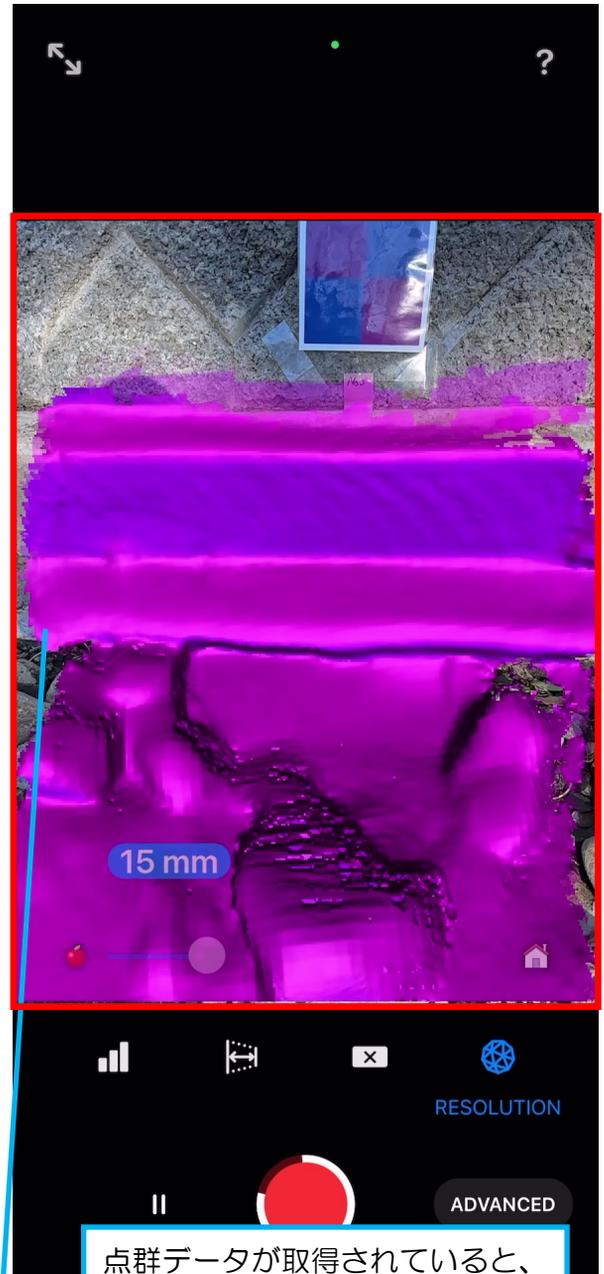
1 スキャンを開始

① スキャンを開始します。



「赤い丸ボタン」をタップし、スキャンを開始します

② 移動しながらスキャンします。



点群データが取得されていると、計測対象が、紫色で表示されます。一方で、計測対象が写真のように表示されている箇所は、点群が取得されていない箇所となりますので、全体が紫色で塗りつぶすように移動させてください

使い方

新しいスキャンの開始方法を説明します。

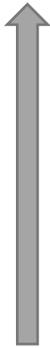
参考

スキャンを開始

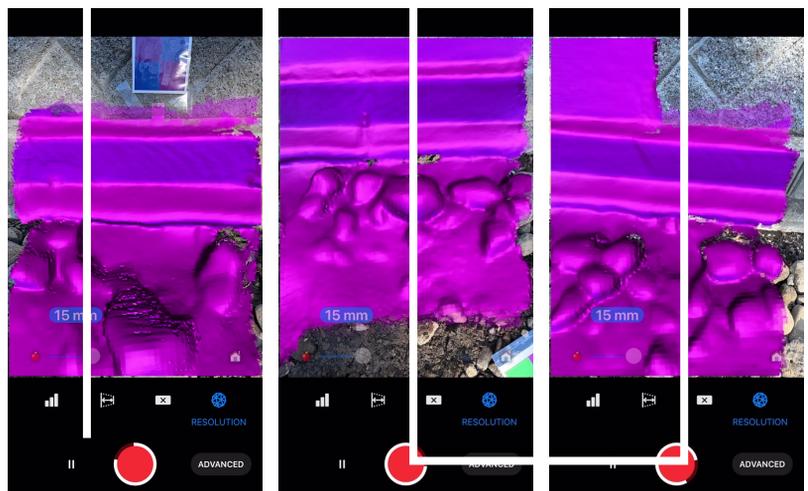
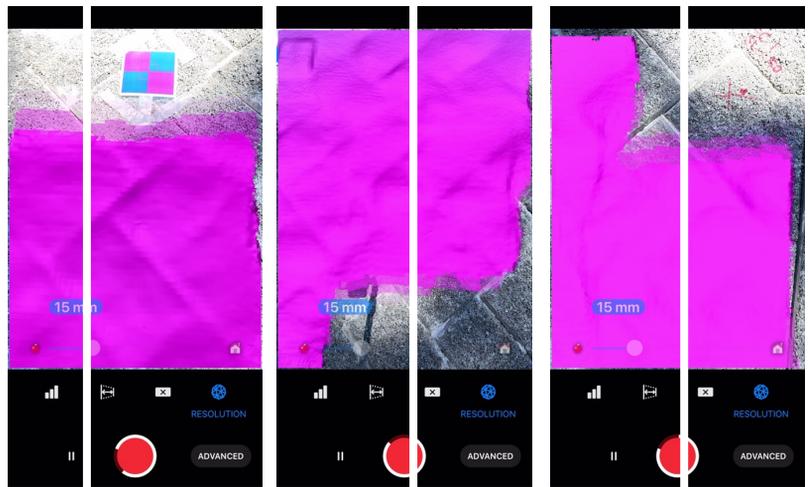
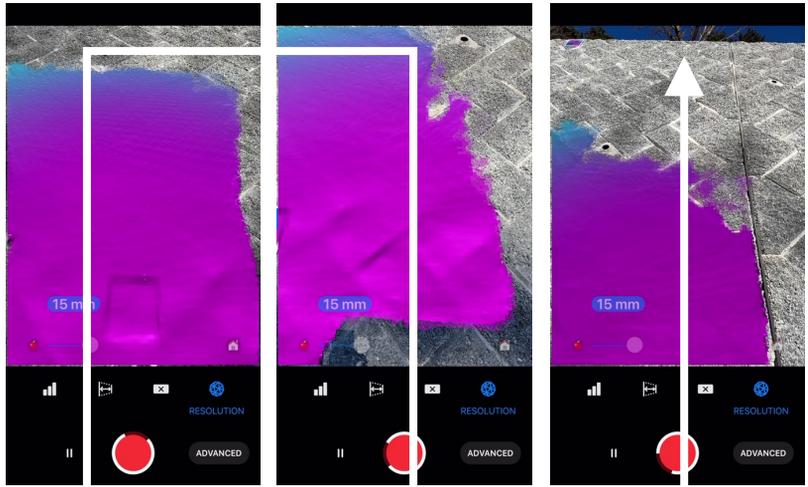
①モバイル端末を一筆書きで移動しながらスキャンします。



②横移動



①移動



※自撮り棒や一脚に取り付けての計測は、あくまで一例となります。

使い方

新しいスキャンの開始方法を説明します。

参考

スキャンを開始

①使用するモバイル端末の性能（計測距離）上、計測範囲を一度に計測できない場合は、分割してスキャンします。標定点を用いて、点群処理ソフトウェア等で後処理することで、スキャンデータを統合可能です。ただし、安全に留意して計測することが重要です。



図 計測範囲の分割例

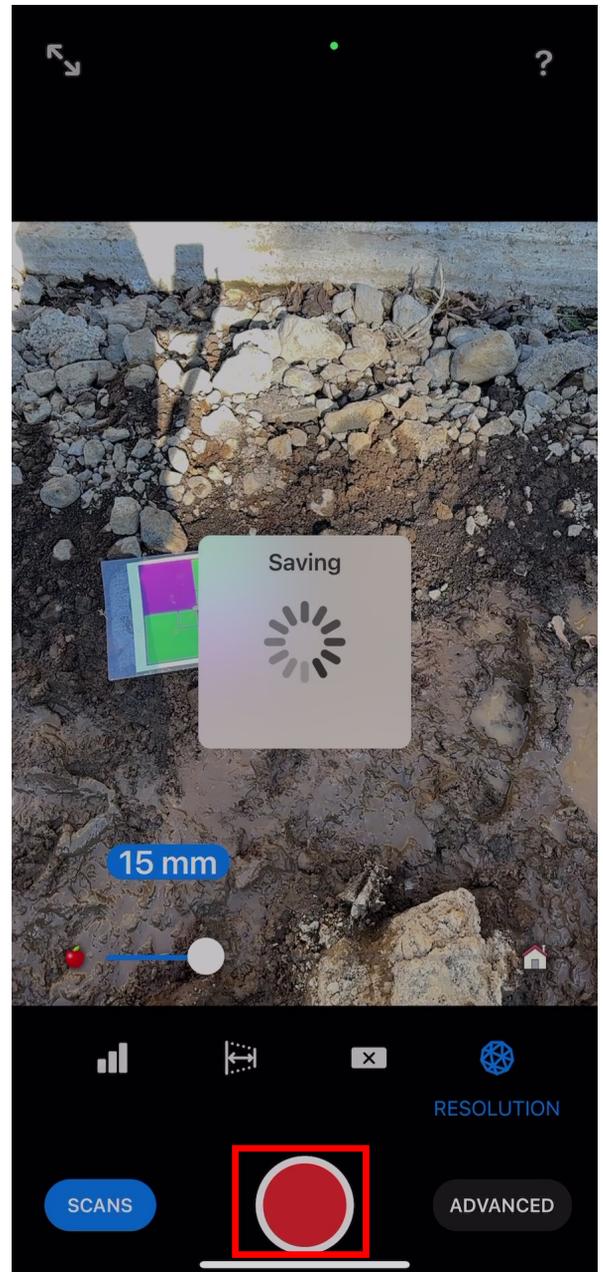
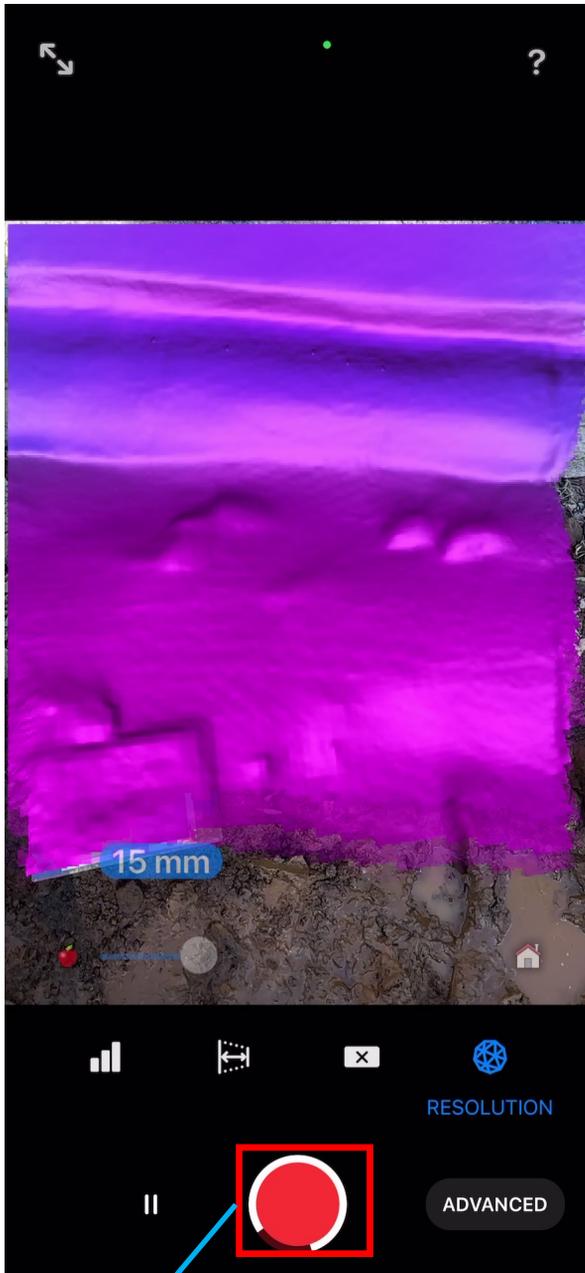
※自撮り棒や一脚に取り付けての計測は、あくまで一例となります。

使い方

新しいスキャンの終了方法を説明します。

2 スキャンを終了

① スキャンを終了します。



「赤い丸ボタン」をタップし、スキャンを終了します

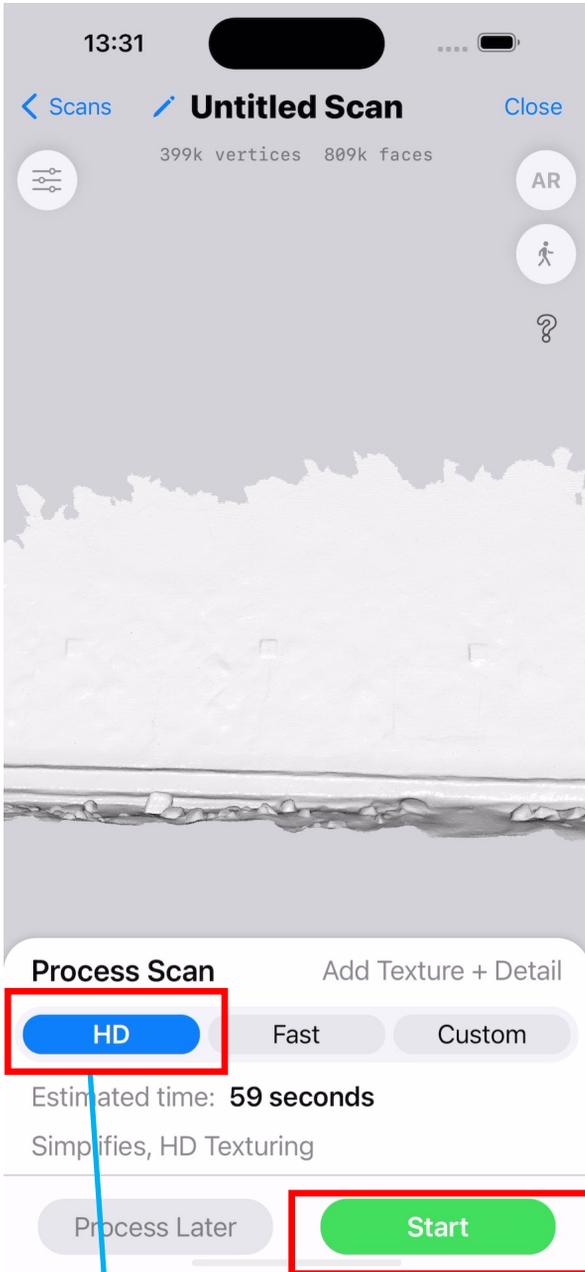
使い方

スキヤンの処理方法を説明します。

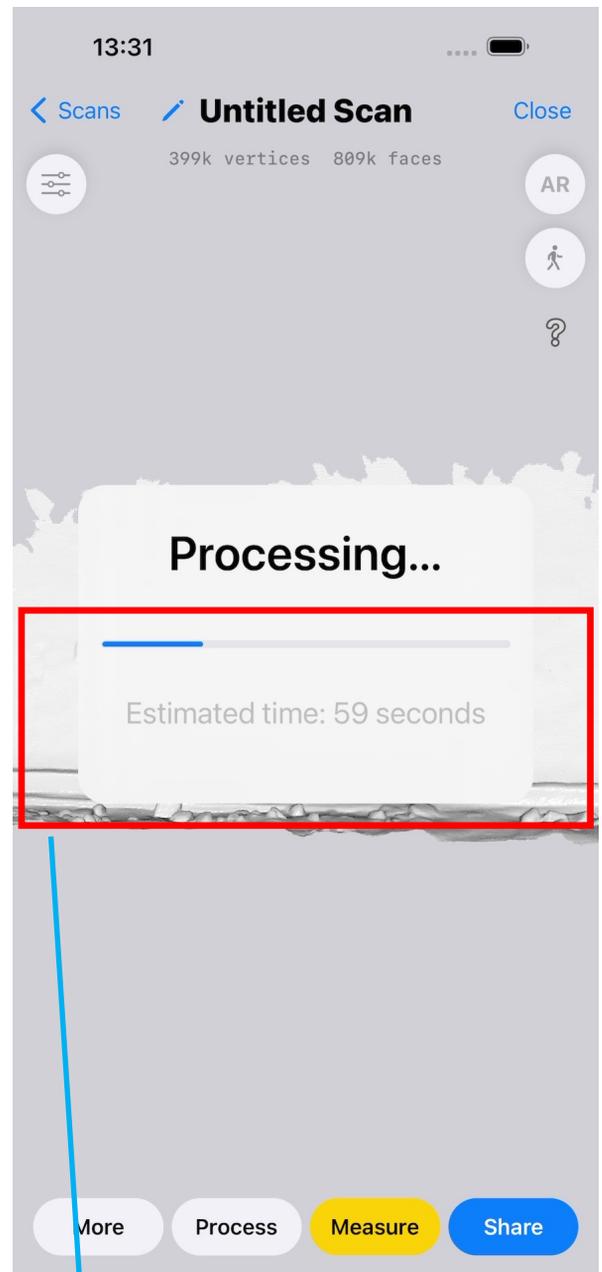
3 スキヤン結果の処理方法を選択

① スキヤン結果の処理方法を選択します。

② スキヤン結果の処理方法が終わるまでしばらく待ちます。



[HD] をタップし、
[Start] をタップします



ゲージが100%になると処理
終了です

使い方

スキャン結果の確認方法を説明します。

4 スキャン結果を確認

① スキャン結果を確認します。

② 画面を操作し、様々な視点からスキャン結果を確認します。



画面のスライドや、ピンチ、回転などにより、スキャン結果を確認します

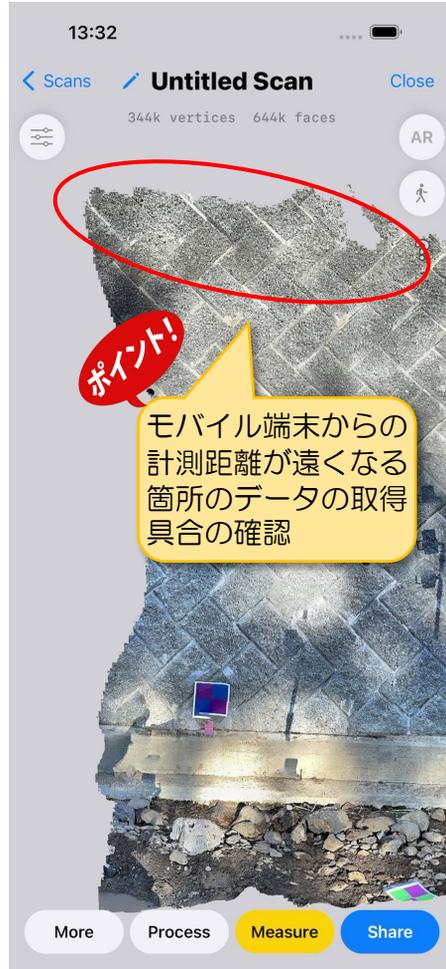
使い方

スキャン結果の確認方法を説明します。

参考

スキャン結果を確認

① スキャン結果の確認は、スキャン範囲全体その他、特に標定点や計測距離が遠い箇所、変化点のある箇所等のデータが取得されているか確認します。



使い方

スキャン名の記録とアプリの終了方法を説明します。

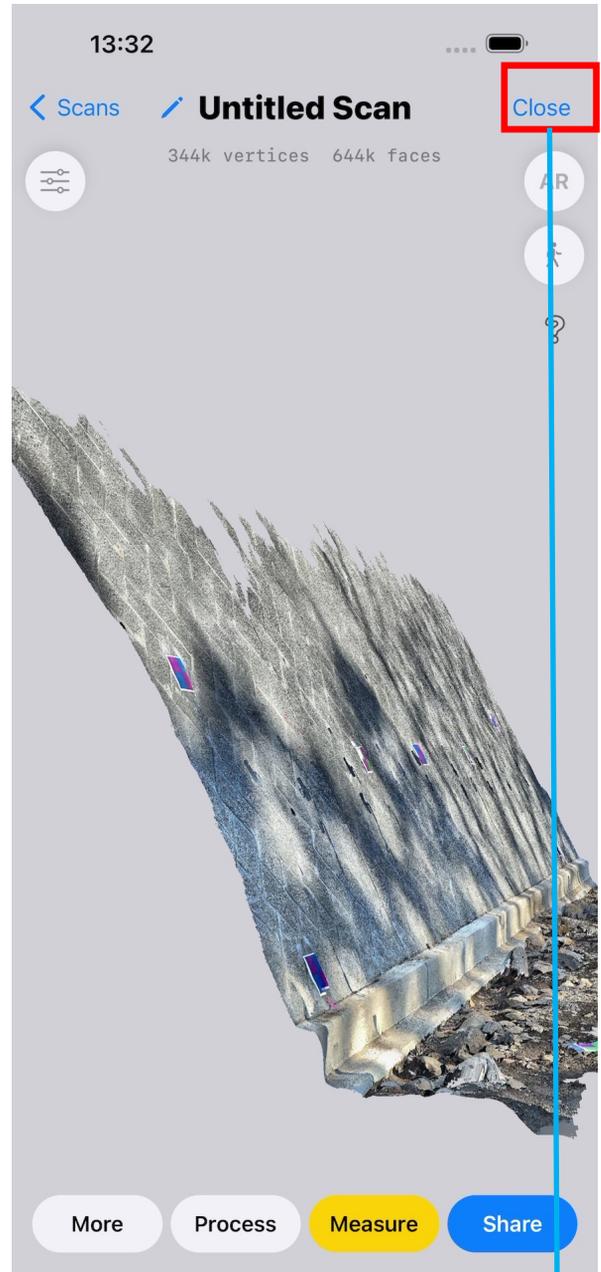
5 スキャン名の入力とアプリを終了

① スキャン名を入力します。

② アプリを閉じます。複数スキャンする場合は、手順1～5を繰り返します。



[Untitled Scan] をタップし、ファイル名を付けます



[Close] をタップし、アプリを閉じます